



The 19th International
FRYDERYK CHOPIN
Piano Competition
Prize winners'
Gala Concert



第19回ショパン国際ピアノ・コンクール2025
入賞者ガラ・コンサート

2026年1月27日(火)18:00開演 / 1月28日(水)18:00開演
東京芸術劇場 コンサートホール

6:00 p.m., January 27&28, 2026, at Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

人のいるところには
夢がある。



JAPAN ARTS

ごあいさつ



このたび、野村不動産グループは、「第19回ショパン国際ピアノ・コンクール2025入賞者ガラ・コンサート」東京公演に特別協賛させていただき運びとなりました。

ショパン国際ピアノ・コンクールは、世界で最も権威あるコンクールの一つとされ、ショパンの故郷ポーランド・ワルシャワで5年に一度開催されます。過去の入賞者には著名な演奏家が名を連ねており、若きピアニストの登竜門としても知られています。

今回、アントニ・ヴィット氏の指揮とワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団とともに、入賞者を日本に迎えられることを大変喜ばしく存じます。

今宵は、若きピアニストの個性と情熱に満ちた演奏を存分にお楽しみください。音楽を志す若者をはじめ、多くの方々に「音楽を通じた豊かな時」を過ごしていただければ幸いです。

最後に、本公演の実現にご尽力いただきました関係各位の皆様へ、心から深い敬意を表しますとともに、公演の成功を心よりお祈り申し上げます。

野村不動産ホールディングス株式会社

代表取締役社長 兼 社長執行役員 グループCEO 新井 聡



親愛なる皆様

昨年、ポーランドの首都ワルシャワで開催された第19回フリデリク・ショパン国際ピアノ・コンクールは、エリック・ルーの優勝、ケヴィン・チェン、ワン・ズートン、桑原志織、リュウ・ティエンヤオ、ヴィンセント・オン、ピョートル・アレクセヴィチ、ウィリアム・ヤンの入賞という結果とともに、昨年10月23日にその幕を閉じました。

2027年に創設から100周年を迎えるショパンコンクールは、単なる競技会ではなく、何よりも我が国がほこる芸術家であるショパンの美しい音楽をめぐる祭典であり、5年に一度、音楽的エネルギーと情熱をもってこの偉大な作曲家の遺産を見事に解釈し聴かせてくれるピアニストたちが世界中から集うというかけがえない場であります。

第19回を数える本大会においても、才能あふれる若きピアニストの方々が素晴らしい熱演を披露してくださいました。ショパンの美しい音楽に敬意を持って各々向き合う姿は、皆様の中にも印象深く刻まれたことでしょう。改めて、コンテストの皆様へ感謝申し上げるとともに、ますますのご活躍を祈念いたします。

1月27日および28日に東京芸術劇場コンサートホールで開催されるガラ・コンサートにおいて、入賞者の方々のピアノ演奏の粋を日本の聴衆の皆様にご堪能いただけることを大変嬉しく思います。

先月に開催されました第19回ショパン国際ピアノ・コンクール優勝者リサイタルに続き、この入賞者コンサートを企画主催してくださるジャパン・アーツの皆様へ、改めて感謝申し上げます。

このガラ・コンサートが、ショパンの音楽を敬愛する日本の聴衆の皆様にとって忘れがたい体験となり、ポーランドと日本を結ぶ文化の架け橋としての役割を果たすものとなることを確信しております。本日の夕べが皆様にとって心揺さぶられる素晴らしい芸術体験となりますようお願いいたします。

駐日ポーランド共和国大使

パヴェウ・ミレフスキ

第19回ショパン国際ピアノ・コンクール2025

入賞者ガラ・コンサート

オール・ショパン・プログラム

 **1月27日** 火 **Tuesday, January 27**

- 第6位** **ウィリアム・ヤン William Yang**
2つのノクターン Op.32 (ノクターン第9番 ロ長調 & 第10番 変イ長調)
2 Nocturnes Op.32 (Nocturne No.9 in B major & No.10 in A-flat major)
- 第5位** **ピョートル・アレクセヴィチ Piotr Alexewicz**
アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 変ホ長調 Op.22
Andante Spianato and Grande Polonaise Brillante in E-flat major, Op.22
- 第5位** **ヴィンセント・オン Vincent Ong**
幻想ポロネーズ 変イ長調 Op.61
Polonaise-fantaisie in A-flat major, Op.61
- 第4位** **桑原志織 Shiori Kuwahara**
舟歌 嬰へ長調 Op.60
Barcarolle in F-sharp major, Op.60
- 第2位** **ケヴィン・チェン Kevin Chen**
ポロネーズ第6番 変イ長調 Op.53「英雄」
Polonaise No.6 in A-flat major, Op.53 "Heroic"
- 休憩 ——
- 第3位** **ワン・ズートン Zitong Wang**
ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11
Piano Concerto No.1 in E minor, Op.11
[指揮: アントニ・ヴィット]
[管弦楽: ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団]
Conductor: Antoni Wit / Warsaw Philharmonic Orchestra
- 休憩 ——
- 第1位** **エリック・ルー Eric Lu**
ピアノ協奏曲第2番 へ短調 Op.21
Piano Concerto No.2 in F minor, Op.21
[指揮: アントニ・ヴィット]
[管弦楽: ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団]
Conductor: Antoni Wit / Warsaw Philharmonic Orchestra

 **1月28日** 水 **Wednesday, January 28**

- 第6位** **ウィリアム・ヤン William Yang**
ノクターン第17番 ロ長調 Op.62-1
Nocturne No.17 in B major, Op.62-1
- 第5位** **ピョートル・アレクセヴィチ Piotr Alexewicz**
ワルツ第5番 変イ長調 Op.42
Waltz No.5 in A-flat major, Op.42
- 第5位** **ヴィンセント・オン Vincent Ong**
4つのマズルカ Op.41 第1番 ホ短調 / 第2番 ロ長調 / 第3番 変イ長調 / 第4番 嬰ハ短調
4 Mazurkas Op.41 No.1 in E minor / No.2 in B major / No.3 in A-flat major / No.4 in C-sharp minor
- 第3位** **ワン・ズートン Zitong Wang**
幻想曲 へ短調 Op.49
Fantasie in F minor, Op.49
- 第1位** **エリック・ルー Eric Lu**
ワルツ第7番 嬰ハ短調 Op.64-2
Waltz No.7 in C-sharp minor, Op.64-2
バラード第4番 へ短調 Op.52
Ballade No.4 in F minor, Op.52
- 休憩 ——
- 第4位** **桑原志織 Shiori Kuwahara**
ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11
Piano Concerto No.1 in E minor, Op.11
[指揮: アントニ・ヴィット]
[管弦楽: ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団]
Conductor: Antoni Wit / Warsaw Philharmonic Orchestra
- 休憩 ——
- 第2位** **ケヴィン・チェン Kevin Chen**
ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11
Piano Concerto No.1 in E minor, Op.11
[指揮: アントニ・ヴィット]
[管弦楽: ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団]
Conductor: Antoni Wit / Warsaw Philharmonic Orchestra

主催: ジャパン・アーツ



特別協賛:  あしたを、つなぐ
野村不動産グループ

駐日ポーランド共和国大使館 / ポーランド広報文化センター

後援: 

駐日ポーランド共和国大使館



提携:
東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

第19回ショパン国際ピアノ・コンクール 入賞者ガラ・コンサート

1月22日(木) 熊 本	熊本県立劇場コンサートホール	主催:(公財)熊本県立劇場
1月23日(金) 福 岡	福岡シンフォニーホール	主催:テレQ、(公財)アクロス福岡
1月24日(土) 大 阪	ザ・シンフォニーホール	主催:ABCテレビ
1月25日(日) 京 都	京都コンサートホール	主催:ABCテレビ 共催:京都コンサートホール、京都市
1月27日(火) 東 京	東京芸術劇場コンサートホール	主催:ジャパン・アーツ

1月28日(水) 東 京	東京芸術劇場 コンサートホール	主催:ジャパン・アーツ
1月29日(木) 神奈川	ミューザ川崎シンフォニーホール	主催:神奈川芸術協会
1月31日(土) 愛 知	愛知県芸術劇場コンサートホール	主催:ジャパン・アーツ
2月3日(火) ソウル	ソウル・アーツ・センター コンサートホール	主催:MAST Media



Profile

エリック・ルー Eric Lu

第1位 アメリカ



1997年12月15日生まれ。カーティス音楽院卒業。2018年、リーズ国際ピアノ・コンクール優勝。これまでに、ボストン交響楽団、ロンドン交響楽団、シカゴ交響楽団、東京交響楽団、フィンランド放送交響楽団、上海交響楽団、そしてロサンゼルス・フィルハーモニック、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団他と共演。ケルン・フィルハーモニー、クイーン・エリザベス・ホール、エルブ・フィルハーモニー、コンセルトヘボウ、ウィグモアホール、デイヴィス・シンフォニーホール、ワルシャワ・フィルハーモニー、ソウル・アーツセンター、ブリュッセルのパレ・デ・ボザールなどでリサイタルを行っている。ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ワルシャワ、アスペン、ロサンゼルス、ドゥシュニキ、そしてバルデモーサの音楽祭にも出演。ワーナークラシックスより、2026年1月に新譜「シューベルト：即興曲集Op.90&142」をリリース。



©K. Szlęzak/NIFC

ケヴィン・チェン Kevin Chen

第2位 カナダ



2005年3月7日生まれ。コリーン・アスパリア、クシシュトフ・ヤブウォンスキ、そしてマリリン・エングルに個人指導を受ける。現在は、ハノーファー音楽演劇大学にてアリエ・ヴァルディに師事。ルービンシュタイン国際ピアノ・コンクール(テル・アヴィヴ、2023年)及びジュネーヴ国際音楽コンクール(2022年)優勝。これまでにカーネギーホール、ロンドンのセント・ジョンズ・スミス・スクエアなどで演奏し、ラ・ロック・ダンテロン、ドゥシュニキ=ズドルイ、「ショパンと彼のヨーロッパ」、オックスフォード・ピアノ・フェスティバルなどの音楽祭にも出演。アボッツフォード・ユース・オーケストラとのデビュー以来、エドモントン交響楽団、台北市立交響楽団、カルガリー・フィルハーモニー管弦楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、そしてハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団などと定期的に共演している。



©K. Szlęzak/NIFC

ワン・ズートン Zitong Wang

第3位・ソナタ賞 中国



1999年2月3日生まれ。ニュー・イングランド音楽院でダン・タイ・ソンに師事。ニューヨークのロザリン・テューレック・バッハ(2010年)、プリンストン(2020年)、フェロル(スペイン、2022年)の国際ピアノ・コンクールで優勝。2023年にはボルツァーノのブゾーニ国際ピアノ・コンクール第6位。13歳で北京の紫禁城コンサート・ホールでソロ・リサイタル・デビューを果たす。これまでにペンシルベニア州のヴェライゾン・ホール、クリーヴランドのセヴェランス・ホール、ニューヨークのスタインウェイ・ホールのほか、北京、上海、台北でも演奏し、ヤックヤ・リン、シャン・ジャンなどの指揮者とフィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ニュージャージー交響楽団、ガリシア交響楽団などと共演。室内楽のレパートリーにおいてはモンチェ・リウ、ロベルト・ディアス、ノースウェスト・チェンバー・ミュージックと共演している。



©W. Grzędziński/NIFC

桑原志織 Shiori Kuwahara

第4位 日本



1995年10月11日生まれ。東京藝術大学を首席で卒業。伊藤恵氏に師事。ベルリン芸術大学大学院にてクラス・ヘルヴィッヒのもと、修士課程および国家演奏家資格課程を最優秀の成績で修了。2022年にベルリンでスタインウェイ賞受賞。バルセロナのマリア・カナルス国際音楽コンクール(2016年)、イタリア、ヴェルチェッリのヴィオッティ国際音楽コンクール(2017年)、ボルツァーノのブゾーニ国際ピアノ・コンクール(2019年)、テル・アヴィヴのルービンシュタイン国際ピアノ・コンクール(2021年)で第2位を獲得。2025年にはブリュッセルのエリザベート王妃国際コンクールでファイナリスト入賞。ポーランド(ドゥシュニキ=ズドルイのショパン音楽祭)、チェコ(プラハ・ルドルフ・フィヌムのドヴォルザーク・ホール)、オーストリア、ドイツ、イスラエル、セルビア、イタリアなど多くのヨーロッパ諸国や日本、韓国、アメリカでも演奏している。



©K. Szlęzak/NIFC



Profile

ヴィンセント・オン Vincent Ong 第5位 マレーシア



2001年4月12日生まれ。ン・チョン・リムのもとで学びはじめ、現在はベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でエルダー・ネボルシンに師事している。エリザベート・レオンスカヤ、ナターリア・トゥルル、ボリス・ベルマンの教えも受ける。最初のコンクールでの成功は2019年の台北の国際マエストロ・ピアノ・フェスティバルでの優勝で、その後、シンガポール国際ピアノ・コンクール(2020年)第6位、ロベルト・シューマン国際音楽コンクール第1位(2024年)を獲得した。また、スザンネ・ショルテン財団のモーリス・ラヴェル・ピアノ賞、スイスのクラヴァルテ財団の奨学金、そしてハンス・アイスラー大学のルシア・ローザー奨学金を授与されている。

ピョトル・アレクセヴィチ Piotr Alexewicz 第5位・聴衆賞 ポーランド



2000年4月9日生まれ。グロツワフでパヴェウ・ザヴァツキ教授、チューリッヒにてコンスタンティン・シェルバコフに師事。以前はニコライ・デミジェンコのもとでも学んだ。ヒルトンヘッド国際ピアノ・コンクール(2025年)で第2位。ワルシャワでのポーランド国内ショパン・コンクールでは二度優勝し、第18回ショパン・コンクールではズビグニェフ・ジェヴィエツキ教授賞を受賞。2024年、テキサス・ピアノ協奏曲コンクール及びスイスのシェンク・コンクールで優勝し、すべての特別賞も受賞した。ベルリン・フィルハーモニー、パリのサル・コルトー、サラ・サンパウロ、グロツワフ国立音楽フォーラム、ワルシャワ・フィルハーモニー、大阪のザ・シンフォニーホールなどの著名なホールで演奏。ハワード・シェリー、カルロス・ミゲル・ブリエト、アンドレイ・ボレイコ、マレク・ピャロフスキなどの高名な指揮者と共演している。フリデリク・ショパン研究所より2枚のアルバムをリリース。

ウィリアム・ヤン William Yang 第6位 アメリカ



2001年5月13日生まれ。カーティス音楽で学び、現在はロバート・マクドナルドの指導のもと、ジュリアード音楽院で学びを続けている。以前はアレクサンダー・コルサンティア、ポール・ワースにも師事していた。2025年にマイアミで開催された全米ショパン・コンクールで優勝し、マズルカ賞とソナタ賞も受賞。ミッドウェスト国際ピアノコンクールで第2位(2014年)、クリーヴランド国際ピアノ・コンクールでセミファイナリストとなり、パッサ賞を受賞(2015年)。フォートワース交響楽団、サウスイースト・アイオワ交響楽団、ミネソタ管弦楽団と共演している。また、スタインウェイ・レコーディング・プロジェクト賞を受賞し、カーネギーホールのワイル・リサイタル・ホールでのリサイタルを含むツアーに参加した。

アントニ・ヴィット Antoni Wit (指揮)



最も偉大なポーランド人指揮者の一人であり、ポーランド音楽の権威として知られている。2002年～2013年ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団の総監督兼芸術監督、現在はクラクフ・フィルハーモニー管弦楽団の桂冠指揮者を務める。1971年のカラヤン国際指揮者コンクールで第2位受賞後、ザルツブルク復活祭音楽祭でカラヤンのアシスタントを務めた。その後ポーランドの主要オーケストラで要職を歴任。ポーランド国外においてヨーロッパ、アメリカ、アジアなどで国際的なキャリアを築いており、近年ではベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、シュターツカペレ・ドレスデン、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、クリーヴランド管弦楽団、ブダペスト祝祭管弦楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団などに客演。これまでに200枚を超えるCDをリリースしており、600万枚近くを売り上げた。2013年のグラミー賞受賞と同賞の6度のノミネートをはじめ、ディアパソン・ドール、カンヌ・クラシカル賞、フリデリック賞を4度など多くの賞を受賞している。2025年9月にはショパン音楽大学より名誉博士号を授与された。

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団 Warsaw Philharmonic Orchestra



ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、最初の公演を1901年11月5日、新たに建設されたフィルハーモニー・ホールの柿落しとして行った。指揮は楽団の共同創設者にして初代音楽監督兼常任指揮者のエミール・ムリナルスキ、ピアノ独奏はイグナツィ・ヤン・パデレフスキであった。

第1次世界大戦前から第2次世界大戦までの間にポーランドのみならず、ヨーロッパの音楽界においても主要な団体のひとつとなっていた。第2次世界大戦直後、本拠地フィルハーモニー・ホールが再建され、国立管弦楽団の称号を与えられた。新しい監督ヴィトルド・ロヴィツキのもと、ポーランドを代表するオーケストラとしての地位を取り戻した。2002年からアントニ・ヴィットが総監督兼芸術監督に就任した。13年からヤツェク・カスプシク、19年からアンドレイ・ボレイコが就任。24年からクシシュトフ・ウルバンスキが芸術監督を務めている。

今日、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、世界的人気と高い評価を確立している。5つの大陸で150以上ものコンサート・ツアーを行い、世界の主要なコンサートホールで演奏している。ショパン国際ピアノ・コンクールや「ワルシャワの秋」現代音楽祭でも定期的に演奏を続けている。ポーランド放送や国営テレビ(TVP)、ポーランド国内外のレコード・レーベル及び映画会社との録音も行っている。ペンデレツキやシマノフスキの壮大なスケールの声楽曲や器楽曲で2013年グラミー賞(6つのノミネーションを含む)を受賞したほか、ディアパソン・ドール、ICMA(国際クラシック音楽賞)、グラモフォン賞、レコード芸術アカデミー賞、ポーランド・フォノグラフィック・アカデミーのフレデリック・アワードなど数多くの荣誉ある録音関係の賞を受賞している。

WARSAW PHILHARMONIC ORCHESTRA

FIRST VIOLINS Stanisław Podemski Justyna Bogusiewicz Kornelia Grądzka Joanna Jakobs Aleksandra Kupczyk Agnieszka Lewandowska Jan Lewtak Mateusz Marczyk Grzegorz Osieński Marek Powideł Michał Szałach Kristine Harutyunyan	Paweł Rybkowski Magdalena Smoczyńska Krzysztof Trzcionkowski	DOUBLE BASSES Janusz Długocki Karol Kowal Maciej Dobrzański Michał Kotowski	BASSOONS Andrzej Budejko Leszek Wachnik	TIMPANI Piotr Domański
VIOLAS Marzena Hodyr Marek Iwański Agnieszka Duż-Dymus Katarzyna Henrych Radosław Jaroński Damian Kułakowski Agnieszka Podlucka Paulina Różańska-Czopka	FLUTES Krzysztof Malicki Małgorzata Cegielska	HORNS Grzegorz Sabeł Daniel Otero Carneiro Aleksander Szebesczyk Maciej Kostrzewa	DIRECTOR Zofia Zembrzuska	ORCHESTRA PERSONNEL MANAGER Paweł Pruszkowski
SECOND VIOLINS Piotr Tadzik Bogdan Śnieżawski Dominika Wojcieszuk Katarzyna Dul Grzegorz Groblewski Izabela Hodor Bożena Michalska	CELLOS Karolina Jaroszewka-Rajewska Robert Putowski Dominik Drewniak Piotr Sapilak Angelika Wais Jerzy Wołochowicz	OBOES Aleksandra Rojek Piotr Lis	TRUMPETS Krzysztof Bednarczyk Dorota Cholewa	TOUR COORDINATORS Piotr Dębski Piotr Woźniak
	CLARINETS Grzegorz Wołczarski Krystyna Sakowska	TROMBONE Krzysztof Wojtyński	STAGEHANDS Rafał Iżykiewicz Sebastian Michałek	

General Partner





第19回ショパン国際ピアノ・コンクール ハイ・レベルな表現と技巧の競演

道下京子（音楽評論）
Kyoko Michishita

2025年10月20日深夜、ワルシャワのフィルハーモニーホールの広間に多くの報道陣が詰めかけ、第19回ショパン国際ピアノ・コンクールの結果発表を固唾を呑んで見守っていた。日付が変わり、午前2時を大きく回ったころ、審査員と11名のファイナリストが登場。栄えある第1位に輝いたのは、アメリカ出身のエリック・ルーであった。17歳で参加した前々回のコンクールでは第4位に入賞し、10年の時を経て、再びワルシャワの舞台に戻ってきた。優勝者として名前が告げられた瞬間、彼は喜びをかみしめるように静かに下を向いた。

4月に開催された予備予選の段階で、すでにワールド・ワイドに活躍するピアニストや、いくつかの著名な国際コンクールでの入賞経験をもつピアニストが揃っていた。前回のショパン・コンクールでは個性豊かな演奏が多く聴かれたが、今回は演奏技巧と表現力の両面で4年前を凌駕するハイ・レベルの競演が繰り返された。

あれから3か月、ワルシャワのファイナリストたちによってコンクールで演奏したショパン作品が再び披露される。

曲目について

F.ショパン(1810～1849)

■アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 変ホ長調 Op.22

フレデリック・ショパンは、20歳で祖国ポーランドを離れ、ウィーン滞在を経て、1831年10月からパリを拠点に活動した。ピアノと管弦楽の編成による「華麗なる大ポロネーズ」は1831年作曲。その後、ピアノ独奏のための「アンダンテ・スピアナート」が1835年に書き加えられ、《アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ》はその年のうちに初演された。今日では、ポロネーズ部分もピアノ独奏のみで演奏されることが多い。

■2つのノクターン Op.32 (ノクターン第9番 ロ長調&第10番 変イ長調)

ショパンは、ワルシャワ音楽院在学中にジョン・フィールドのノクターンに深い感銘を受けたといわれている。作品32の2曲のノクターン(第9番・第10番)は、1835～37年の作曲。第9番(ロ長調)は、場面ごとの大きな変化が特

徴。音楽の流れを中断するかのように、「ストレット」と表示された後にフェルマータ付きの休符が記されている。第10番(変イ長調)の主部における曲想や音楽表現は、初期の夜想曲を連想させる。中間部はヘ短調の劇的な楽想で、さらに嬰ヘ短調に転調する。

■4つのマズルカ Op.41

マズルカとは、ポーランドのマゾフシェ地方のマズール、クヤヴィ地方のクヤヴィアク、そしてロンクス地方が起源とみられるオベレクなどの民俗舞曲の総称。《4つのマズルカ》Op.41は1838年から39年に作曲された。第1曲(ホ短調)は、憂うつな主部の楽想にロ長調の伸びやかな中間部をはさむ。第2曲(ロ長調)は、和音によるモティーフとユニゾンを含む動きのあるモティーフを軸に展開する。第3曲(変イ長調)では、言葉を語るようなメロディの抑揚が印象的。第4曲(嬰ハ短調)は旋法的な調べや豊かな音色に彩られている。

■ワルツ第5番 変イ長調 Op.42

ワルツは、ウィーンの舞曲レントラーに由来している。ショパンは、ワルシャワに住んでいる頃からワルツやレントラーに接していたとみられる。《ワルツ》Op.42は1840年に完成した。序奏の8小節間、右手はトリルを弾き続ける。主部に入ると、左手が奏でる3拍子のワルツのリズムに乗り、右手は2拍子のメロディを歌い上げていく。作品全体は変イ長調で統一されているが、変化に富んだ多彩なワルツ。

■幻想曲 ヘ短調 Op.49

ロマン派では、明確な形式よりも自由で即興的な書法が好まれ、即興曲や幻想曲というタイトルの作品が数多く作曲された。ショパンの《幻想曲》は、1841年作曲。重々しい導入部に続き、ヘ短調の主要主題が奏でられる。その後、変イ長調の美しい主題、右手のオクターヴの動きが特徴のハ短調の主題、行進曲のような変ホ長調の主題など、イマジネーションに富んだ楽想が繰り返される。

■バラード第4番 ヘ短調 Op.52

ショパンの4曲のバラードは、彼の後半生の創作。ポーランドの詩人ミツキエヴィチの詩に基づいて作曲されているとの説もあるが、特定の文学作品を背景としたものではない。1842年、彼が少年時代にピアノを師事したジ

ヴニーや友人マトゥシンスキがこの世を去る。第4番のバラードは、同年の作曲。短い導入ののち、陰鬱な第1主題と祈りにも似た第2主題が、変奏を重ねて展開していく。

■ポロネーズ第6番 変イ長調 Op.53「英雄」

ショパンが最初に完成・出版させたのは、ト短調のポロネーズである。ポーランドの宮廷舞曲であるポロネーズを、彼は生涯にわたり書き続けた。1842年に作曲された第6番のポロネーズは、その勇壮な楽想から「英雄」と呼ばれる。序奏では、気持ちを昂らせるかのように上行する半音階が何度も繰り返される。主部に入ると、ポロネーズのリズムが高らかに打ち鳴らされる。彼は、ポーランド独立の暁にこの曲の演奏を望んでいたという。

■舟歌 嬰ヘ長調 Op.60

舟歌(バルカローレ)はヴェネツィアの船漕ぎの歌に由来する。ショパンの《舟歌》も、左手による揺らめく波を象徴するような分散和音の特徴とし、右手はメロディを伸びやかに歌い上げていく。メロディを彩る細やかな装飾音やハーモニイの大胆な変化は、音楽に深い陰影をもたらしている。彼がこの作品を作曲した1845年から46年にかけては、恋人で作家のジョルジュ・サンドとの溝が深まり、心身ともに疲弊していた時期であった。

■幻想ポロネーズ 変イ長調 Op.61

この曲のタイトルは、「ポロネーズ=ファンタジー」。《舟歌》と同じ時期の創作である。作品は複雑な構成をもち、夢想的な導入部に続き、オクターヴでポロネーズのリズムが打ち鳴らされる。その後、音楽は推移的な楽想などをはさんで自由に展開してゆく。曲中、回想するかのようにポロネーズのリズムが繰り返し用いられる。

これまでのショパン・コンクールのファイナルでは、コンチェルトのみが演奏されてきた。第19回大会では、新たな試みとしてファイナリスト全員にこの曲の演奏が課せられた。

■ノクターン第17番 ロ長調 Op.62-1

ショパンとサンドの関係は、1847年に終止符を打つ。作品62の2曲のノクターン(第17番、第18番)はその少し前の作曲で、1846年に書き上げられた。第17番(ロ長調)は、ドラマティックな分散和音のカデンツで始まる。繊

細な音色に彩られた主部に続き、中間部では低音部のシンコペーションのリズムと牧歌的な情趣を特徴とする。

■ワルツ第7番 嬰ハ短調 Op.64-2

ショパンは、生涯にわたりワルツを作曲した。作品64の3曲のワルツ(第6番、第7番、第8番)は、1846年から翌年の創作とみられる。第7番(嬰ハ短調)は三部形式に基づいて書かれている。作品は、ほの暗い部分と急速なピウ・モッソの部分によって構成された主部に続き、中間部では主部の異名同音の長調(変ニ長調)となっている。

■ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11

1829年7月、ワルシャワ音楽院を卒業したショパンは、友人とウィーンを訪れ、ケルトナートーア劇場での演奏会に出演した。そこで手ごたえを感じた彼は、ピアノ協奏曲の作曲を決意。《ピアノ協奏曲第2番》の初演後、彼は《ピアノ協奏曲第1番》の創作を本格的に始める。作品は、ウィーンへ旅立つ前の告別演奏会(10月)で初演された。3楽章構成の協奏曲で、2つの主題が大きなコントラストをなす第1楽章、ノクターンのような甘美な情趣の第2楽章、第3楽章では、ロンド主題にクラコヴィアクをとり入れている。

■ピアノ協奏曲第2番 ヘ短調 Op.21

1829年秋、ウィーンから戻ったショパンは、《ピアノ協奏曲第2番》の作曲にとりかかる。作品は、1830年3月にワルシャワの国民劇場で初演された。彼にとって最初に完成したピアノ協奏曲であるにもかかわらず、この作品が「第2番」とされたのは、ホ短調の協奏曲(Op.11)のほうが先に出版されたためである。第1楽章は、しっとりとした情感と語りかけるような楽想が魅力。第2楽章は、初恋の人コンスタンツヤ・グワトコフスカを想い作曲されたという。第3楽章の主要主題には、マズルカのリズムが用いられている。全体を通して、淡い詩情に満ちあふれたピアノ協奏曲である。



ショパン国際ピアノ・コンクール 歴代入賞者 一覧

■第1回(1927年)

- | | | |
|---------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 1位 レフ・オポーリン(旧ソ連) | 3位 マルタ・ソシンスカ(ポーランド) | 2位 アレクセイ・スルタノフ(ロシア) |
| 2位 スタニスラフ・スピナルキー(ポーランド) | 4位 中村紘子(日本) | 3位 ガヴリエラ・モンテローロ(アメリカ) |
| 3位 ローザ・エトキン＝モスコフスカ(ポーランド) | 5位 エドワード・アウル(アメリカ) | 4位 レム・ウラジン(ロシア) |
| 4位 グリゴリー・ギンズブルグ(旧ソ連) | 6位 エルザビェッタ・グラボウナ(ポーランド) | 5位 宮谷里香(日本) |

■第2回(1932年)

- | |
|-------------------------|
| 1位 アレキサンドル・ユニンスキー(アメリカ) |
| 2位 イムレ・ユンガー(ハンガリー) |
| 3位 ボレスラフ・コン(ポーランド) |
| 4位 アブラム・ルーフェル(旧ソ連) |
| 5位 ルイス・ケントーネ(ハンガリー) |
| 6位 レオニード・サガロフ(旧ソ連) |

■第3回(1937年)

- | |
|--------------------------|
| 1位 ヤコブ・ザク(旧ソ連) |
| 2位 ローザ・タマルキナ(旧ソ連) |
| 3位 ヴィトルド・マルクジンスキー(ポーランド) |
| 4位 ランス・ドッサー(イギリス) |
| 5位 アギ・ジャンボール(ハンガリー) |
| 6位 エディト・アクセンフェルト(アルメニア) |

■第4回(1949年)

- | |
|---------------------------------|
| 1位 ハリナ・ツェルニー＝ステファンスカ
(ポーランド) |
| 1位 ベラ・ダヴィドヴィッチ(旧ソ連) |
| 3位 バーバラ・ヘッセ＝ブコウスカ(ポーランド) |
| 4位 ワルデマール・マチセウスキー(ポーランド) |
| 5位 ジョージ・ムラブロフ(旧ソ連) |
| 6位 ウラディスラフ・ケドラ(ポーランド) |
| 7位 リザルド・バクスト(ポーランド) |

■第5回(1955年)

- | |
|-------------------------|
| 1位 アダム・ハラシェビッチ(ポーランド) |
| 2位 ウラディーミル・アシュケナージ(旧ソ連) |
| 3位 フー・ツォン(中国) |
| 4位 バーナード・リンゲイッセン(フランス) |
| 5位 ナウム・シュタルクマン(旧ソ連) |
| 6位 ドミトリー・パピエルノ(旧ソ連) |

■第6回(1960年)

- | |
|-------------------------|
| 1位 マウリツィオ・ポリーニ(イタリア) |
| 2位 イリーナ・ザリカヤ(旧ソ連) |
| 3位 タニア・アコット・ハルトニアン(イラン) |
| 4位 リミン・チャン(中国) |
| 5位 ジナイダ・イグナチェワ(旧ソ連) |
| 6位 ヴァレリー・カストルスキー(旧ソ連) |

■第7回(1965年)

- | |
|-------------------------|
| 1位 マルタ・アルゲリッチ(アルゼンチン) |
| 2位 アルトゥール・モレイラ＝リマ(ブラジル) |

■第8回(1970年)

- | |
|----------------------|
| 1位 ギャリック・オールソン(アメリカ) |
| 2位 内田光子(日本) |
| 3位 ビオトル・パレチニ(ポーランド) |
| 4位 ユージン・インディチ(アメリカ) |
| 5位 ナタリア・ガヴリーロフ(旧ソ連) |
| 6位 ヤヌス・オレニザク(ポーランド) |

■第9回(1975年)

- | |
|-------------------------|
| 1位 クリスチャン・ツィメルマン(ポーランド) |
| 2位 ディーナ・ヨッフエ(旧ソ連) |
| 3位 タチアナ・フェドキナ(旧ソ連) |
| 4位 パーヴェル・ギリロフ(ポーランド) |
| 5位 ディーン・クレイマー(アメリカ) |
| 6位 ダイアナ・カッソ(ブラジル) |

■第10回(1980年)

- | |
|----------------------|
| 1位 ダン・タイ・ソン(ベトナム) |
| 2位 タチアナ・チェパノワ(旧ソ連) |
| 3位 アルチアン・パバジャン(旧ソ連) |
| 5位 海老彰子(日本) |
| 5位 エヴァ・ポブウオッカ(ポーランド) |
| 6位 エリック・ベルコット(フランス) |
| 6位 イリーナ・ピエトロフ(旧ソ連) |

■第11回(1985年)

- | |
|--------------------------|
| 1位 スタニスラフ・ブーニン(旧ソ連) |
| 2位 マルク・ラフォレ(フランス) |
| 3位 クシシュトフ・ヤブウォンスキ(ポーランド) |
| 4位 小山実稚恵(日本) |
| 5位 ジャン＝マルク・ルイサダ(フランス) |
| 6位 タチアナ・ピカイゼン(旧ソ連) |

■第12回(1990年)

- | |
|------------------------|
| 1位 なし |
| 2位 ケヴィン・ケナー(アメリカ) |
| 3位 横山幸雄(日本) |
| 4位 コラド・ロレック(イタリア) |
| 4位 マルガリータ・シェフチェンコ(旧ソ連) |
| 5位 アンナ・マリコワ(旧ソ連) |
| 5位 高橋多佳子(日本) |
| 6位 カロリーネ・サジュマン(フランス) |

■第13回(1995年)

- | |
|-----------------------|
| 1位 なし |
| 2位 フィリップ・ジュジアーノ(フランス) |

■第14回(2000年)

- | |
|-------------------------|
| 1位 ユンディ・リ(中国) |
| 2位 イングリット・フリッター(アルゼンチン) |
| 3位 アレクサンダー・コプリン(ロシア) |
| 4位 サ・チェン(中国) |
| 5位 アルベルト・ノッセ(イタリア) |
| 6位 佐藤美香(日本) |

■第15回(2005年)

- | |
|----------------------|
| 1位 ラファウ・ブレハッチ(ポーランド) |
| 2位 なし |
| 3位 イム・ドンヒョク(韓国) |
| 3位 イム・ドンミン(韓国) |
| 4位 関本昌平(日本) |
| 4位 山本貴志(日本) |
| 5位 なし |
| 6位 カ・リン・コリーン・リー(中国) |

■第16回(2010年)

- | |
|-----------------------|
| 1位 ユリアンナ・アヴデーエワ(ロシア) |
| 2位 インゴルフ・ヴンダー(オーストリア) |
| 2位 ルーカス・ゲニューシャス(ロシア) |
| 3位 ダニール・トリフォノフ(ロシア) |
| 4位 エフゲニ・ボジャノフ(ブルガリア) |
| 5位 フランソワ・デュモン(フランス) |

■第17回(2015年)

- | |
|-------------------------|
| 1位 チョ・ソンジン(韓国) |
| 2位 シャルル・リシャール＝アムラン(カナダ) |
| 3位 ケイト・リウ(アメリカ) |
| 4位 エリック・ルー(アメリカ) |
| 5位 イーケ・(トニー・)ヤン(カナダ) |
| 6位 ドミトリー・シンギン(ロシア) |

■第18回(2021年)

- | |
|----------------------------------|
| 1位 ブルース・リウ(カナダ) |
| 2位 アレクサンダー・ガジェヴ
(イタリア/スロヴェニア) |
| 2位 反田恭平(日本) |
| 3位 マルティン・ガルシア・ガルシア(スペイン) |
| 4位 小林愛実(日本) |
| 4位 ヤクブ・クシリック(ポーランド) |
| 5位 レオノーラ・アルメリーニ(イタリア) |



【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

これからも引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いします。



アーティストサポートの詳細はこちらをご覧ください。

◆◆◆◆2025年度ご支援いただいた皆さま◆◆◆◆

＜年間サポート＞

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 天野 雅子 伊藤 直美 M.I. 岩村 和央 K.U. 上村 憲裕 内永 太洋 榎本 英二 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子 K.K. 神田 尚子 北村 真 工藤 章子 小林 真希子 R.K. 相良 延利 新貝 康司 鈴木 忠明 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎 東條 Lilly K.T. トゥルラブ 真智子 苫米地 英人 K.N. 中村 京子 E.N. 児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 A.H. T.H. 樋口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子 堀之内 優子 M.H. 松尾 芳樹 E.M. K.M. 真野 美千代 三木谷 晴子 水野 靖彦 安田 牧子 山川 和子 山崎 明日香 横谷 雅子 Akiko Yoshikawa Y.Y. (匿名希望24名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社青林堂 三井住友カード株式会社
ロイヤルリゾート株式会社 株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ裏み込みの申込用紙等をご覧ください。

2026年1月12日現在(敬称略)

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720 (平日11:00～17:00 年末年始を除く)

BLUE FRONT SHIBAURA

広がる、空と海。
広がる、可能性。
目に見える景色も、
ここで過ごす人の気持ちも、
晴れ渡る。
澄み渡る。
そんな街を、
ここ東京 芝浦から
つくっていかうと思うのです。



BLUE FRONT SHIBAURA

野村不動産グループ2030年ビジョン「まだ見ぬ、Life & Time Developerへー 幸せと豊かさを最大化するグループへー」を体现する「BLUE FRONT SHIBAURA」は、国家戦略特別区域計画の特定事業であり、延床面積約55万㎡のオフィス・ホテル・商業・住宅を含む、約10年間に及ぶ大規模複合開発です。ここに当社グループの本社を移転し、グループとしてよりチャレンジングな組織風土の醸成を図るとともに、社員一人ひとりが個人やチームとしてのパフォーマンスを最大化する働き方を実現することで、「まだ見ぬ、Life & Time」を創造する企業への進化・変革を目指します。

※「BLUE FRONT SHIBAURA」は東日本旅客鉄道株式会社との共同事業です。
※TOWER Sは、2025年2月竣工済み、TOWER Nは、2030年度竣工予定です。
※掲載の写真は、2024年4月に撮影したものに、「BLUE FRONT SHIBAURA」予定地の完成予想をCG加工したもので実際とは異なります。また今後変更になる場合があります。
※「BLUE FRONT SHIBAURA」の商業施設のご案内は、右記の二次元コードからご覧いただけます。



まだ見ぬ、Life & Time Developerへー
ー 幸せと豊かさを最大化するグループへー

あしたを、つなぐ
 野村不動産グループ